

テーマ「HPVワクチン」

県では、県民の「健康寿命の延伸」及び「健康格差の縮小」を目指し、健康づくりに関する取組を推進しています。健康コラムでは、健康に関する正しい情報と新しい情報を発信し、県民の皆様の健康でいきいきした毎日を応援していきます。

HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる「ヒトパピローマウイルス（HPV）」の感染を防ぐことができるワクチンです。
接種完了までに半年程度かかるため、公費接種の対象となる小学6年生～高校1年生女子の保護者の方は、計画的に接種することを検討してください。

【参考】第四次和歌山県健康増進計画における数値目標

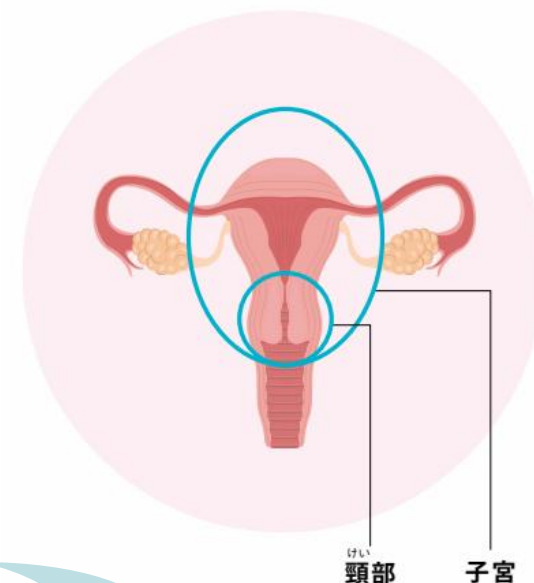
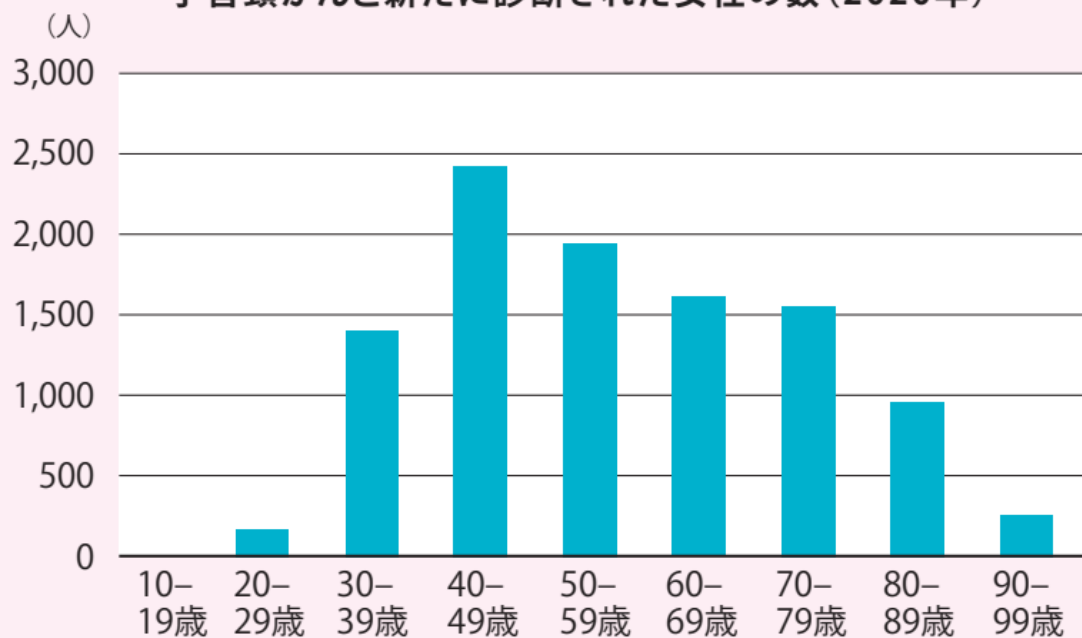
	2022年（現状）	2035年（目標）
健康寿命の延伸	男性 72.39年 女性 75.33年	男性 75年 女性 78年
特定健康診査実施率（40～74歳）	48.9%	70%以上
食塩摂取量（20歳以上）	9.5g	7g
野菜摂取量（20歳以上）	252.3g	350g
一日の歩数の平均 （20～64歳）	男性 7,690歩 女性 6,771歩	8,000歩
喫煙率の減少	男性 23.7% 女性 6.4%	男性 18.9% 女性 3.5%

子宮頸がんについて

子宮頸がんの現状

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんのこと
また、若い世代の女性のがんの中で多くを占める

しんだん
子宮頸がんと新たに診断された女性の数(2020年)



20歳代から増え始め、
30歳代までにがん治療で
子宮を失う（妊娠できなくなってしまう）人も年間約
1,000人いる

日本では毎年、**約10,000人**の女性がかかる病気で、
さらに毎年、**約3,000人**の女性が亡くなっている

子宮頸がんについて

どのくらいの人子宮頸がんになるのか？

<一生のうち子宮頸^{けい}がんになる人>

1万人あたり125人

2クラスに1人くらい



1クラス約35人の女子クラスとして換^{かん}算

<子宮頸^{けい}がんで亡くなる人>

1万人あたり34人

10クラスに1人くらい



つまりこれってどのくらい？



出典 国立がん研究センター がん情報サービス 2020年全国推計値に基づく累積罹患^{るいせき り かん}リスク、2022年累積死亡リスク、2022年人口動態統計がん死亡データより

出典：厚生労働省「HPVワクチンについて知ってください～あなたと関係のある“がん”があります～」(概要版・詳細版)、2025年2月改訂版

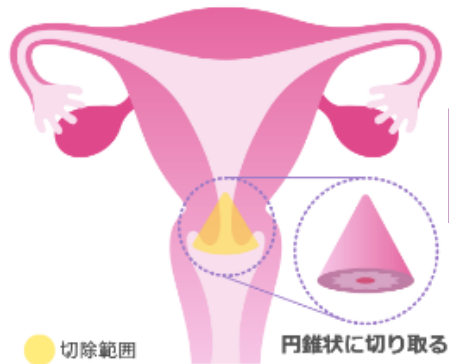
子宮頸がんの治療

子宮頸がんのステージにあわせて、手術、放射線療法、抗がん剤（化学療法）のいずれか、もしくは複数を組み合わせて治療する

手術の例

前がん病変や初期の場合

円錐切除術



子宮の温存が可能

早産のリスク上昇
不妊の原因
になり得る
再燃・再発リスク
も数%ある
(定期フォローが
数年単位で必須)

肉眼で見えるくらい進んだがんの場合

広汎子宮全摘手術



子宮頸部やリンパ節を幅広く切除

妊娠能力の消失
排尿障害
リンパ浮腫
卵巣ホルモン
欠落症状、
性交障害 等

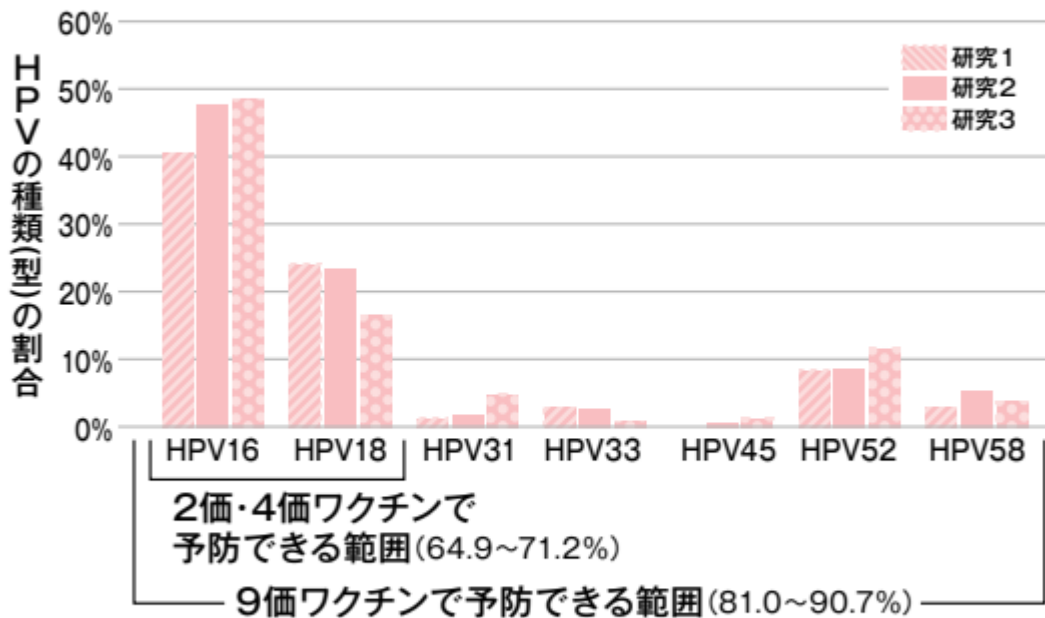
国内で年間13,000人以上の若い
女性が円錐切除を受けている
→深刻な健康被害

治療の進歩により、たとえ命が
救われても、様々な後遺症で悩まされ
生涯にわたり生活の質が低下

HPVワクチンの効果

シルガード® 9はHPV 16型と18型に加え、ほかの5種類のHPVの感染も防ぐため、**子宮頸がんの原因の80～90%を防ぐことができる！**

＜日本人女性の子宮頸がんにおける
HPVの種類(型)の割合と、ワクチンで予防できる範囲＞



HPVワクチンを導入することで、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果

すでにHPVに感染した細胞をワクチンにより排除することはできない…

したがって初めての
性交渉前の9～14歳前後に
接種するのが、最も有効である

「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成

研究1: Onuki, M., et al. (2009). Cancer Sci 100(7): 1312-1316.

研究2: Azuma, Y., et al. (2014). Jpn J Clin Oncol 44(10): 910-917.

研究3: Sakamoto, J., et al. (2018). Papillomavirus Res 6: 46-51.

H P V ワクチン接種について

定期接種 対象者

小学校6年～高校1年相当の女の子

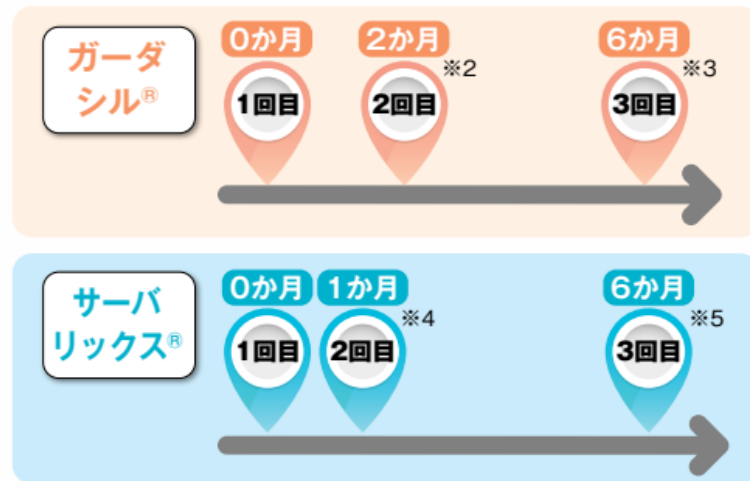
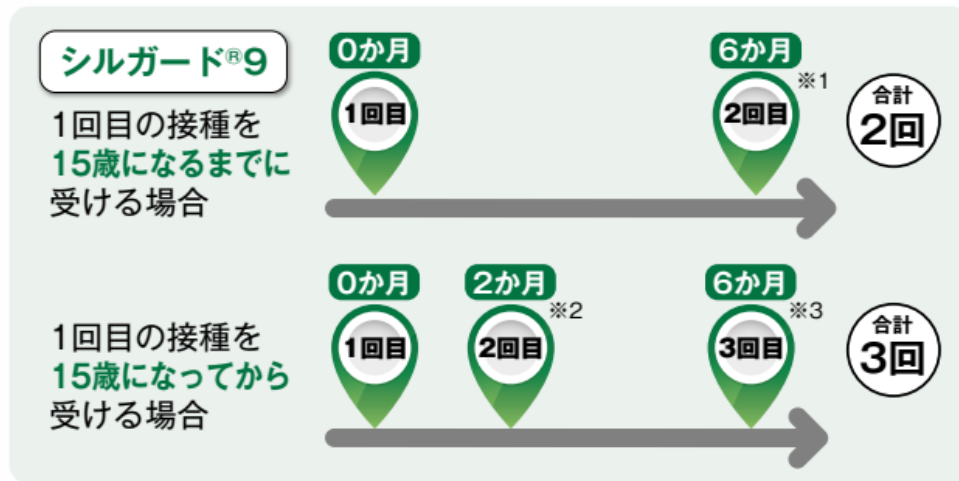
※対象者は公費により接種を受けることができる（無料）

機会を逃すと
自己負担額は
約10万円

ワクチンの種類

2価ワクチン（サーバリックス®）、4価ワクチン（ガーダシル®）、
9価ワクチン（シルガード®9）の 3種類

一般的な接種スケジュール



3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※4）、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上（※5）あけます。

HPVワクチン接種後の症状

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤み等が起こることがある
ごくまれに、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることもある



ワクチン接種後、健康被害が生じた場合は・・・

- ・ HPVワクチンにかかる**協力医療機関**があります
- ・ 「**予防接種健康被害救済制度**」 という制度があります

問い合わせ先窓口

- ・ 各市町村予防接種担当課
- ・ 県庁健康推進課